

【1】要支援者情報の把握・共有

救急医療情報キットを活用した高齢者の情報共有 (福井市)

基礎情報

実施地域	福井市全域
実施主体	福井市
所在地	福井市大手3丁目10-1
代表者	市長 東村新一

要支援者の定義

- ・市のひとり暮らし等高齢者登録者（65歳以上）
- ・登録外のひとり暮らし高齢者、高齢者のみの世帯の者（65歳以上）
- ・その他、健康上の不安のある高齢者（65歳以上）や障害者（年齢制限無し）

事業の概要

- ・キットの中に、かかりつけ医や緊急連絡先、服薬状況等を記載した用紙や保険証の写しを入れ、冷蔵庫に保管しておくことで、万が一の緊急時に備える。
- ・ひとり暮らし等高齢者登録者へは、担当民生委員が訪問して配付。キットの使い方の説明や情報用紙の記入支援を行う。民生委員が自宅を訪問することで、各登録者の生活状況の把握にもつながる。
- ・登録外の高齢者へは、老人クラブ、自治会型デイホームなど身近なところで配付。

情報の共有者

市長寿福祉課、地域包括支援センター、民生委員

情報の共有方法

キット所持者の氏名や住所を市長寿福祉課で名簿にまとめ、民生委員と地域包括支援センターへ情報提供。民生委員と地域包括支援センターは、配付者の見守りや情報更新の支援を行う。

事業の実績、成果

- ・キット配付数：16,749個（平成25年1月末時点）
- ・救急搬送時の活用件数：19件（平成25年1月末時点）
- ・活用状況：救急搬送時に、救急隊員がかかりつけ医や服薬状況を確認している。搬送先の医療機関へもキットを手渡し、医療機関でも活用されている。

工夫した点

熱中症対策の保冷剤入りスカーフを一緒に渡し、キット配付と同時に健康管理の呼びかけを行っている。

事業の財源

- ・平成23年度の県の補助金を活用
（地域支え合い体制づくり事業）
- ・平成24年度以降は予算化していない

課題

- ・配付したキットが正しく設置されていない場合がある。（冷蔵庫に入れていない、マグネットシートを冷蔵庫に貼っていないなど）
- ・キット内の情報を更新してもらうための呼びかけが必要。

今後の目標

- ・引き続き、対象となる人がキットを設置できるよう、配付を続ける。
- ・キットを正しく活用できるよう、使い方や情報更新の呼びかけを行う。